



◆ 田中 敏弘 議員

**問** 2020年度プログラミング教育必修化に向けての進め方、多忙な教員への指導、支援体制は。



タブレット端末を使った授業風景（広幡小学校）

※ICT教育とは、コンピューターやインターネットなどの情報通信技術（information and communication technology）を活用して行う教育。

**答** 平成32年度達成目標値が100%となっているが、平成29年度中に整備は完了し、目標値を達成する予定。機器の整備状況については、タブレット44台、実物投影機18台、プロジェクター23台、電子黒板8台である。

**問** 町第五次総合計画・後期基本計画の校内LAN整備率（小中学校）目標達成できるのか。

**答** 県教育委員会主催の研修会への参加、講師を招聘し、町や学校で研修会を実施したり計画的に授業で活用できるよう準備を進めていきたい。

**答** 土曜授業は各校の年間計画に基づいて実施されているが、学校の考えのもと、特色ある活動にICT教育を組み込むことは可能かと考える。

教育長 計画的に進め対応

## 教育行政取組み状況は

問 土曜授業にICT教育を組み込むことは。

## 地籍調査は

町長 課題多く未着手

**問** 町内には輪中堤が多くあり、一部は無償貸与地があるが現状把握は、公平公正の面から実態調査のもと、固定資産税・占用料賦課徴収すべきと思うが。

が地籍調査を行わず実施されており、町民の皆様が喫緊の必要性を感じられていないことや、町の地籍調査の予算と職員の確保が困難であることから着手するに至っていない。

**問** 町は地籍調査未着手であるが理由は。

**答** 地籍調査の重要性は十分認識している。調査には土地所有者間合意の境界確認が必要で、多くの時間を要するが、現状は、土地取引

公益通報者保護制度についての質問もしました。



◆ 早崎百合子 議員

町長 検証結果踏まえ検討

## 1300年祭

## 評価と産業祭は

12月23日閉幕の養老改元1300年祭は、地方創生の観点でも自然や歴史に恵まれた養老のブランド力を最大限に発揮し、養老を対外的に売り出す絶好のチャンスだった。産業フェスティバルは、名称を変えながら昭和60年から平成23年まで続いてきた。平成24年からは1300年祭プレイベントとして開催。

**問** 予算編成時期でもあり、中間評価は。

**答** 現時点で中間評価は養老公園への来園者が100万人に達する見込みである。イベントでアンケート等も実施しているので、今後、総合的な評価・検証を行っていく。

**問** 町内産業の普及啓発や地域活性化などの目的である従来の産業フェスティバルを開催しては。

**答** 改元1300年祭の検証結果を踏まえ、イベント場所等も検討していきたい。



8月に開催された盆踊り大会

## がん検診と特定健診の向上は

町長 受診率向上に取り組む

**問** がん検診は。

**答** 早期発見のため、今年度より3ヶ年限定でワンコイン（500円）検診を導入。誰もが受診しやすい環境を整備している。

**問** 特定健診は。

**答** 生活習慣病の早期発見・予防を目的にメタボリックシンドロームに着目し、特定保健指導が義務づけられている。コールセンターやはがき、広報誌等で受診率向上に取り組む。

**問** 学校においてがん教育など健康影響の学習は。

**答** 県教育委員会の指導を受けながら、がんに関する知識の普及啓発をしていく。

町の受診率は県平均を下回る。国民健康保険は医療費が増加し、介護保険は介護予防日常生活支援総合事業がスタート。歯止めのかからない医療費増加により、国民健康保険制度の大改革がなされ、各種健康制度の維持のためにも町民の健康チェックとして受診率向上を図る。